

館報

800号まで  
あと1つ



11月号

No. 799

令和4年  
(2022年)

# やまがた



※表紙の写真は撮影のためマスクを外してもらっています。

## ブランディングでより体幹の 太い企業づくりをサポート

こばやし せいや  
小林 聖也さん (下大池)

ブランディング コンサルタントとして、フリーランスで働く聖也さん。あまり馴染みのない職種ですが、ブランディングとは、企業の『こうなりたい』というビジョンの設計から商品企画、ロゴマーク、店舗デザイン、ウェブサイトなど消費者に発信するまでの一連の過程をいいます。聖也さんは、相談を受けた企業のこれら全ての過程に携わり、特にビジョンの設計は『企業の体幹』と呼ぶほど、じっくりと時間をかけて方向性を話し合うそうです。

「多くの方にブランディングの重要性を知っていただき、企業がこれからもブランドとして続くサポートがしたい」。相談者の話を真摯に聞く姿から企業の成長に貢献したいという熱い想いが伝わってきました。

(10月6日 相談会場にて)

働き姿



# 山形村消防団活動記録



10月30日(日)、ウォーパル山形にて、山形村消防団秋季総合訓練が行われました。例年は9月に行っていますが、コロナ禍での状況を考慮し、10月に変更し実施されました。はじめに本庄富雄団長から「1年ぶりの全体訓練となるのでしっかりと取り組んで今後の活動に役立ててください」と激励があり、訓練に移りました。新入団員をはじめ、各分団3つの班に分かれて規律訓練・停止間の動作・基本姿勢、休めの姿勢や右向けの姿勢」や行進の訓練など熱心に取り組んでいま



た。次に機関班とラップ隊に分かれ、機関班は下大池分団と下竹田分団がモデルになりポンプ操法の訓練を、ラップ隊はラップ吹奏訓練を行いました。ポンプ操法では両分団とも日頃の訓練の成果を披露し、その後もポンプ側と筒先側に分かれて消防署員による指導を受け、来年の大会に向けてのポンプ操法に磨きをかけていました。

晴天のもとでの久しぶりの消防団活動に額の汗も輝いていました。

## 告知板

山形村公民館報『館報やまがた』

### 編集部員大募集!!

山形村公民館では、来年度『館報やまがた』と一緒に制作してもらえる方を募集しています。知っているようで知らない山形村を再発見して、記事にしてみませんか？

編集部の醍醐味である企画校正会議は見学自由！詳しい活動内容や報酬については山形村公民館へご連絡ください。

一緒に館報を作りませんか？



お問い合わせ 山形村公民館 ☎0263-98-3155



### 不時呼集訓練

11月9日(水)早朝に、不時呼集が行われました。不時呼集とはいざという緊急時にサイレンの音をもとに集まる訓練です。また、この日から15日(火)まで秋の火災予防運動が行われました。有事の際は、訓練の成果で集まれるように消防団員さん、よろしく願います。

【読者の皆さんへ】  
気温が下がり、暖房器具を使い始める季節になりました。火の取り扱いには十分ご注意ください。



日の出前に消防団員集合!

子どもの頃に親父が星空を指差して「点滅して動いているのは飛行機で、点滅がなく移動しているのはUFOだ!」と言っていたのでたびたび星空を眺めて確認していた▼その頃テレビ番組では世界各地で目撃されたUFO動画が放映されていた▼UFO・地球外生命体が存在すると思っていた▼大人になってふとUFO・地球外生命体はいるのか?と考えるようになった▼最近もたまたまにUFO目撃のテレビ番組は放映されているのになぜ今まで人間と正式なコンタクトがないのか?UFO目撃動画はフェイクなのか?地球外生命体は存在するが地球から遠すぎて来られないのか?などいろいろ考えてしまう▼実際にUFOが数多く地球に降り立つようなことがあればそれは地球存亡の危機なのか?▼UFO・地球外生命体は架空の想像されたテーマでいた方が今はよいのかもしれない。

## 山すそ

子どもの頃に親父が星空を指差して「点滅して動いているのは飛行機で、点滅がなく移動しているのはUFOだ!」と言っていたのでたびたび星空を眺めて確認していた▼その頃テレビ番組では世界各地で目撃されたUFO動画が放映されていた▼UFO・地球外生命体が存在すると思っていた▼大人になってふとUFO・地球外生命体はいるのか?と考えるようになった▼最近もたまたまにUFO目撃のテレビ番組は放映されているのになぜ今まで人間と正式なコンタクトがないのか?UFO目撃動画はフェイクなのか?地球外生命体は存在するが地球から遠すぎて来られないのか?などいろいろ考えてしまう▼実際にUFOが数多く地球に降り立つようなことがあればそれは地球存亡の危機なのか?▼UFO・地球外生命体は架空の想像されたテーマでいた方が今はよいのかもしれない。

子育てについて話そう

10月12日(水)、トレーニンングセンターにて、やまのこ保育園主催の『子育て座談会』が行われました。この企画は、同保育園の空幸子前園長をアドバイザーに、乳幼児を持つ親たちが子育てに関する悩みや不安を相談・共有できる場として数年前より定期的に開催。今回は、コロナ禍による休止期間を経て、3年ぶりに再開しました。会場には、参加者同士で和

気あいあいと会話を楽しむ姿が見られ、家庭や保育園での悩みに共感し合う場面や、親子での心地良いコミュニケーションの仕方についても意見を交えていました。「1人では思いつかない方法を教えてもらえた」「心が軽くなった」との声もあり、良いフレッシュにもなったようでした。



学校山間伐作業



10月19日(水)、山形小学校の学校山にてみどりの少年団4年生全体で間伐作業が行われました。7月に予定されていた下草刈り体験学習が悪天候のため中止となったため、子どもたちにとって初めての学校山での学習でした。間伐対象木が直径25cm以上

あったため、伐倒そのものは講師の林業委員が行うこととし、子どもたちはそれを間近で見学した後、思い思いに枝を幹から切り落としました。時間いっぱい作業して、持ち帰る枝を袋にみっちり詰め込んだ子どもたち。「また今度学校山に遊びに来てもいいですか」と最後に質問が出るほど、今回の体験は楽しく充実したものになったようでした。



やまのこまつり



10月30日(日)、やまのこ保育園にて、『第26回やまのこまつり』が3年ぶりに開催されました。日用品のバザーのほか、屋外には菓子類や地元農産物、手作り手芸品などが並び、買い物を楽しむ来場者の姿や人形劇サークル『てぶくる』の公演では子どもたちが目を輝かせながら見入っていました。

園舎や父母会の雰囲気を感じていただければ嬉しいですしと話していました。



大人気のバザー会場

人権学習

11月は『人権月間』ということもあり、山形小学校の各学年で『なかよし人権教育講演会』が行われました。その中で高学年対象の『お互いの違いを理解し、認め合い、いじめをなくすことについて』の講演では相手の立場や気持ちを考え、発言や行動をすることが大切だということを学びました。



山形保育園 秋の発表会 展示物準備

11月4日(金)、山形保育園の年長児が『秋の発表会』で手作りのおみこしを展示するため、保育園から展示会場のトレーニンングセンターまでおみこしを担いで行きました。おみこしの側面には、園児たちが描いた絵や手形が貼り付けてあり、中身はペットボトルや紙で作った野菜と果物が入っていました。担ぐ時には、みんなお祭り気分です。「わっしょい! わっしょい!」と大きな掛け声で、とても楽しそうに園児たちは「みんなに見てもらいたい」「頑張って作ったよ」と話してくれました。



秋の発表会は次のページをご覧ください!

# 鉢村『秋の発表会』

11月5日(土)・6日(日)の2日間、トレーニングセンターにて総合文化祭中止に伴う代替企画として『秋の発表会』の展示が行われました。保育園児からピアやまがたの利用者まで幅広い年齢層の作品が展示され、会場を彩りました。

『芸能発表』は今年も事前収録にてYCSでの放映となりましたが、小・中学生や各団体が日頃の練習の成果を披露し、見応えのある発表となりました。

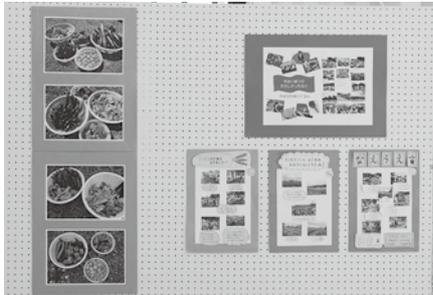
カエル  
いたよー!



アクアの会



山形村エコライフを考える会



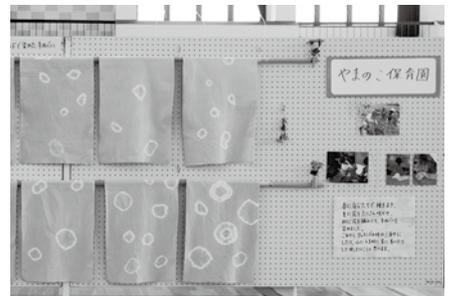
山形保育園



ふれあい児童館 レインボークラブ



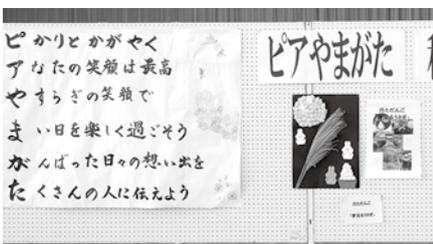
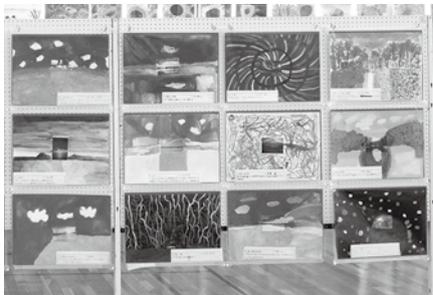
鉢盛中学校 美術部



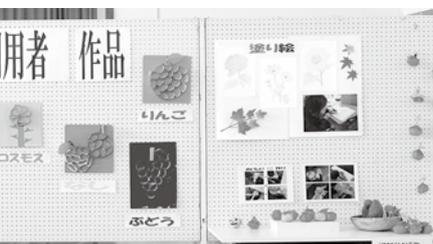
やまご保育園



山形小学校



ピアやまがた



山形村防犯協会



# 力作！熱演！山形



クレヨンママ



山形小学校 金管バンド



彌磨太鼓



山形村民話クラブ「灯」



こどもコーラスTanpopo



暁岳流日本吟道館山形道場



フラサークル



山形村音楽クラブ



山形ジョイ♪ハーモニカ

番外



YCSでの司会を担当した社会教育実習中の赤堀早紀さん(松本大学-上竹田※写真左)と百瀬純雄公民館長



鉢盛中学校 合唱部



玲心会



### 生き生き塾活動記録

11月8日(火)、大根の収穫が行われました。8月下旬に種まきをしておよ



そ2ヶ月半、太く立派に成長し、収穫の日を迎えました。収穫は皆さん和気あいあいと行いましたが、いざ収量を数えてみるとおよそ400本もあり、驚きの様子でした。皆さんに話を聞いてみると、「品種である『小太りくん』の特徴は、辛くなくて煮付けると味が染みやすく美味しい」「これから一層寒くなるのでおでんや煮物にして食べるのが楽しみ」と話してくれました。

### おやじ塾活動記録

10月23日(日)、唐沢そば集落近くの『山形村日本一のそばの里を創る会(以下、創る会)』が管理している圃場にて、そばの収穫体験を行いました。8月の種まきから順調に生長したそばの実を山形村商工会青年部とおやじ塾の参加者が加わり、創る会と共同で刈り取り作業をしました。そばが倒れてしまつて刈りにくい状況でしたが、腰をかがめながら、手作業で収穫しました。刈り取つ



たそばは脱穀し、冬の寒い時期に浸水などを行い、寒晒しそばとして試食を行う予定です。

おいしいたのしい！  
信州全58町村  
収穫祭めぐり

10月15日(土)・16日(日)、アイシティ21イベントスペースで長野県町村会主催の物産展が開催され、山形村・山ノ内町・池田町・朝日村・筑北村・秦阜村・大桑村・高山村が参加しました。この催しは各町村のPRと特産品販売を兼ねたもので、信州各地をめぐっているとのこと。

山形村からは農村青年会議と大池ワインが出店し、ワインやシードル、りんご、季節の野菜などを販売しました。中央のステージでは、アイドルグループやミュージシャンのライブ、ものまね芸人ニッパントのパフォーマンスなどイベントを盛り上げる趣向がありました。遠方からの来客も目立ちました。また、各町村の代表者がPRを行うステージでは、やまっちゃんも参戦！愛嬌を振りまいていました。参加町村とは久しく行われていなかった交流もあり、貴重なイベントとなりました。



### 健康まつり2022

10月22日(土)、ミラ・フード館にて、中信健康友の会山形連絡会主催の『山形協立診療所健康祭り2022』が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となりました。

健康友の会山形支部長の百瀬悦子さんからは「皆さんに楽しんでいただきたいと思いますので開催いたしました。開演はじめは参加者が少なく心配でしたが、こうやって多くの方に集まってもらえて嬉しいです」と話がありました。

山形村で活躍している人形劇サークル『てぶくる』の人形



劇や地元野菜の販売会、山形協立診療所長・鈴木直美医師による『新型コロナウイルス』についてのリモート講演会が行われ、参加者は真剣に聞いていました。



おめでた字・題

瀨川 晴月・朋樹  
おぐやみ 玲子・下大池

倉科 綾子・下大池  
古畑 太八郎・上大池  
片瀬 利彦・上竹田  
上條 以久・88歳・下竹田

# 系車<sup>⑮</sup>

続  
三

老朽化のため令和2年度に閉館した『ふるさと伝承館』。取り壊された伝承館のなかには、山形村の歴史を物語るたくさん資料が展示・収蔵されていましたが、現在は全て仮の収蔵庫に移動し保管されています。これらの貴重な資料は村民の皆さんの大切な宝物ですので、収蔵庫の中にただ保管するだけでなく、村内公共施設を利用した出張展示や研究目的での閲覧対応など、公開・活用を目的とした活動を続けています。その活動のひとつとして、学校での授業利用も積極的に行っています。

このたび、山形小学校の特別支援学級6年生の子どもたちが、『縄文・弥生時代を体験しよう』という特別授業のなかで縄文土器作りにチャレンジすることになりました。子どもたちは山形村の縄文時代に

ついて学んだ後、自分たちの手で土器を作る予定だそうです。それならば！ということ、縄文時代の土器をより深く知ってもらおうべく、11月2日(水)、本物の縄文土器の破片を携えて教育委員会の職員が授業にお邪魔しました。

土器の破片を前にした子どもたちは、細部までじっくりと観察しながら、「縄文ってこんな模様なんだね」「この土器を使ってどんな暮らしをしていたのかな」などたくさん興味を持ってくれたようです。

この日は実際に土器を作る前の練習日だということで、土と水を混ぜて粘土を作り、そこへ糸を撚って縄にした道具で本物とそっくりな模様をつけていきました。こね具合や水分の調整など、土を扱うのはなかなか難しい様子でしたが、縄文時代の人びとの苦労を肌で感じる良い体験になったのではないのでしょうか。また、熱を加えると固まる粘土を使ってオリジナルの土偶も作り、本番に向けての練習はばっちりです。

今回授業に持参した土器を作った縄文時代の「村民」も、令和時代の「村民」の学びの場に活用されるとはきつと思ってもみなかったはず。「子どもたちの参考にあって嬉しい」と、喜んでいるのではないのでしょうか。

縄文土器の破片



上手に縄目の模様がつきました



でき上がった作品(可愛らしい土偶の姿も)

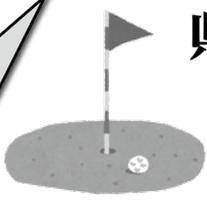
## みんなの人権<sup>⑨7</sup>

### 松本山雅B.F.Cの太一くん、ブラインドサッカー・アジア選手権日本代表に！ ～バリアフリーの世界に向けて『新鮮な風』を吹かせるには？

### 優<sup>優</sup>の風景<sup>④8</sup>

に出場する男子日本代表選手に選ばれました。優勝すれば2024年パリパラリンピックの出場権を獲得できます。◇太一さんは、生坂村の出身。1歳で目の病気にかかり、その後視力を失いました。県松本盲学校小学部1年の時に、ブラインドサッカーに出会い、現在は松本山雅B.F.Cに所属。持ち味は『正確なシュートと力強い突破力』。太一さんは、代表入りに必要な強化指定選手に選ばれ、今年8月、9月のフランス遠征を経て、今回の日本代表選手にチーム最年少の16才で選出されたのでした。◇彼は、自己紹介(日本ブラインドサッカー協会HP)の中で『ブラインドサッカーを始めて変わったこと・よかったことは？』という問いに「出会いが増えた。コミュニケーション能力が上がったこと。生きがいが増えたこと」と答えています。太一さんの活潑とした活躍や、彼を支える家族や校友、チーム仲間たちの厳しくも温かい眼差しに、社会のバリアフリー化に向けた『優の風景』を見る思いがします。◇この『社会のバリアフリー化』に関わって、全盲ろうの教育学者・福島智東大教授は、20年も前に「人間にとつて本当につらいのは、『見えない、聞こえない』ことではなく、『他者との心の交流』がなくなることだ。今、私たちは、情報の氾濫とは裏腹に他者とのコミュニケーションに飢えている人が多いように思う」と述べ、「多くの差別は、この対話、すなわち他者とのコミュニケーションの不足から生ずる」と警告を發しました。そして、「障がい者や高齢者と豊かなコミュニケーションを持つことは、『心のバリアフリー』につながるだけではなく、多くの人たちが抱えている『酸欠状態の心』にとつて新鮮な風になるだろう」と、バリアフリーの世界へ向けての展望を提起しました。太一さんの快挙と併せて、コロナ禍などの息苦しい毎日を生きる私たちの胸に、重たく響いてくる言葉ではありません。(2001.5.5朝日新聞参照)◇9歳で視力を失い18歳で聴力も失った福島教授は、母親令子さんの考案した指文字を使って会話とコミュニケーションを図り、今もバリアフリーの世界を築くための提言を發し続けています。彼の半生を描いた映画『桜色の風が吹く』が今月公開されたと聞きました。(令和4年11月M.H.記)

ゴルフに  
かける



# 県アマ王者仲間入り まだまだ続く挑戦

## 上條 五大<sup>ごだい</sup>さん (上竹田)



話す五大さんは、11月に山口県下関市で開催される日本ミッドアマチュアゴルフ選手権に向けて調整中とのこと。挑戦はまだまだ続きます。



長野県アマチュア選手権大会で優勝

現在25歳の社会人。ゴルフとの出会いは小学5年生の時にお父さんに誘われて行った練習場で、その面白さに夢中になったそう。その後も練習に打ち込み、小学校卒業後は県内でゴルフ部がある佐久長聖中学校・高校へ進学し、その真剣な熱意にご両親も夢に向かって応援しました。

9月8日(木)・9日(金)に穂高カントリークラブで行われた第54回長野県アマチュアゴルフ選手権大会で初優勝を飾った五大さん。決勝ラウンドでは、ねばり強いプレーで6位から首位に逆転し、会場を沸かせました。大会を終えた現在、当時の想いを尋ねてみました。「試合中は自分のプレーに集中することだけ考えていました」と穏やかな口調で振り返る五大さん。

# やまがた Smile

今月のテーマ  
団体紹介

## 山形村猟友会 (松塩筑猟友会山形支部)

紹介者 (代表): 青山 芳正<sup>よしまさ</sup>さん (中大池)



鳥獣慰霊祭での献杯(7月)

### ～館報やまがたへの情報提供募集中～

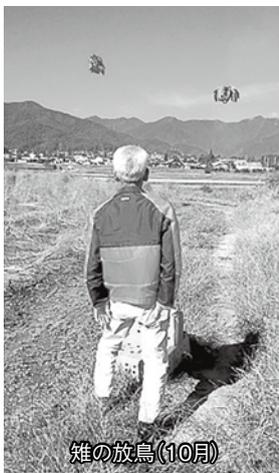
身近な情報・感想をお寄せください

入力フォーム 右のQRコードを読み取ってください。

メール 下記アドレスへメール送信してください。

kanpou@vill.yamagata.nagano.jp

電話 ☎0263-98-3155 (山形村公民館)



雉の放鳥(10月)

電気柵の設置などで罾の数を減らせると思うので、柔軟な村の対応を望みます。 猟友会では駆除だけではなく、県の委託で雉の放鳥も行っています。今年も村の3箇所12羽を放鳥しました。 里山の守り手として、やり甲斐を感じる一方で会員の高齢化問題もあり、今後に向けた仕組みづくりが話し合われることを期待しています。

「罾と鉄砲撃ち」をしており、 罾友会は現状13名が所属しており、村の業務委託で有害鳥駆除を年11回、熊出没時の緊急招集、6月～9月には多くの罾を設置して毎朝見回りを行っています。 よく「趣味と実益を兼ねてますね」と言われますが、実情は危険と隣り合わせの業務で常に緊張感を持って活動しています。特に罾に掛かった熊・鹿・猪・猿は細心の注意が必要で、気を抜けばこちらが命を失いかねません。また、罾の見回りは4ヶ月間毎日続けるため、高齢化が進む会員にはさすがに重労働です。山形の部分的な

山形村公民館報『館報やまがた』No.799 11月号 令和4年11月発行

編集と発行／長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷／カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見ることができます→

